

2007年4月から2011年5月までの期間に、発症してから7日以内に当院の  
脳卒中センターに入院された一過性脳虚血発作と脳梗塞の患者さんへ

研究課題名：頭頸部血管障害を伴う虚血性脳血管障害患者の臨床的特徴と  
予後に関する後ろ向き観察研究についてのご説明

(1) 研究の意義(背景および目的)

脳梗塞は脳卒中のおよそ7割を占める重要な病気です。また、脳梗塞の前兆を一過性脳虚血発作といい、あわせて虚血性脳血管障害といいます。そして、動脈の狭窄や解離などの頭頸部血管障害が虚血性脳血管障害の原因になることがあります。頭頸部血管障害は、虚血性脳血管障害を発症した後の生活や予後に関係すると思われていますが、まだよく分かっていません。

この研究では、頭頸部血管障害が虚血性脳血管障害になった患者さんに与える影響や予後について調べます。

(2) 研究の対象となる方へのお願い

本研究の対象となるのは、2007年4月から2011年5月までの期間に、病気になってから7日以内に当院の脳卒中センターに入院された一過性脳虚血発作と脳梗塞の患者さんです。本研究ではカルテより必要な情報を抽出し、そのデータを解析します。そこで、対象となる方には情報の使用を承諾して頂きたく存じます。承諾される場合にはご連絡は不要です。承諾されない場合は、下記の研究担当者に本人の情報を使用しないでほしいと、ご連絡をお願いします。ご連絡があった場合は、データから該当情報を削除します。

なお、この場合でも、今後当院で受ける診療や治療に変更はありません。

(3) 個人情報(個人を特定できる情報)の保護の方法と情報の廃棄

カルテから情報を取り出した後は、データ内から個人を特定できる情報を削除して解析を行います。

研究の成果は学会や学術雑誌で発表しますが、この中に個人を特定できる情報は一切含まれません。研究が終了した際には、データは廃棄されます。

(4) この研究に関して、当院からの謝礼など、ご本人への直接的な利益はありません。

(5) 利益相反について

研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では、学内研究費のみを使用するため、このような利益相反の状態にはなりません。

(6) 研究実施担当者の氏名・職名、連絡先

主任研究者:木村和美                      川崎医科大学      脳卒中医学      教授

連絡先

電話:086-462-1111(代表)

FAX :086-462-1128(脳卒中医学研究室)

E-mail:stroke@med.kawasaki-m.ac.jp